

第4回懇話会における意見及び意見等に対する考え方

No.	分野	意見等	考え方	資料
1	施策の体系	協働・連携の視点で「利用者との協働による危機管理体制の構築」の表記は再検討すべき。	市民との連携強化の取組みとして協働による応急給水訓練の実施などを記載します。	・資料2 P25 下線部
2	投資・財政計画	経営目標に定める「内部留保資金」について、確保額を20億円以上とする根拠を明記すべき。	内部留保資金の目的と20億円とした根拠を記載します。	・資料2 P32(3) 下線部
3	投資・財政計画	5章の取組みが、6章の計画に反映していることを明記すべき。	投資計画の説明において「5章 実現方策」に記載した取組みを見込んでいることを追記します。	・資料2 P33 下線部
4	投資・財政計画	平準化により更新基準年数を超過する管路がどれくらいあるのか知りたい。	P34(表6-2)の2019年度の管路に係る費用約23億円のうち、管の更新率1%以上の実施に係わる費用は約16億円で、他はループ管新設事業等の費用です。平準化により管路更新費用が約13.3億円となっていますが、ここで更新が先送りされてしまう延長は、主要管で約700mと考えられます。 また、残りの約7億円は、当初から前倒しで計画していた事業、及び管更新費用ですので、先送りすることには問題はなく、計画期間の前期のうちに事業実施可能と考えています。	—

5	投資・財政計画	投資計画の 2039 年以降の管路更新費が半分になっているが、この時の更新率は何%か。	更新費用を算出した 30 年間の平均更新率を 10 年毎に表記します。 また、更新費用が計画期間前半に大きくなっている理由を追記します。	・資料 2 P35 表 6-3 及び 下線部
6	投資・財政計画	試算に使用する数値の考え方の根拠を記載してはどうか。	計画に使用する諸数値の算定方法を追記します。	・資料 2 P37 下線部 P38 表
7	投資・財政計画	グラフの縦軸の目盛りを統一すべき。	ご指摘のとおり修正します。	・資料 2 P40、P44、P48 の表
8	投資・財政計画	シミュレーション結果のまとめの考察が不足している。市民への影響を記載するなど市民が関心をもつ記述にすべき。	シミュレーション①及び②の場合について、それぞれの状況をイメージしやすいよう追記します。	・資料 2 P51 下線部
9	投資・財政計画	今後の検討予定の取組みについて、「必要最小限の人員」の表記は、再検討をすべき。	ご指摘を踏まえ、内容を修正します。	・資料 2 P52 下線部 (④の 2 つ目の取組み)
10	投資・財政計画	「ヒト」への投資について記述が不十分でないか。	職員の人材育成、能力開発についての取組みを追記します。	・資料 2 P52 下線部 (④の 3 つ目の取組み)
11	投資・財政計画	料金改定のシミュレーションのパターンを増やすべき。	料金改定のパターンについては、実際の料金改定の際に詳細に検討するため本計画（本試算）では 3 ケースとします。	—

※その他の修正

- ・ P32 経営目標 (2) 料金回収率 ⇒ (2) 適正料金の確保 に修正
- ・ P32 経営目標
(4) 年平均 1%を目指します。 ⇒ (4) 計画期間の 2020 (令和 2) 年度から 2029 (令和 11) 年度の平均として 1% 以上を目標として掲げます。